

# HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No.7

## 東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日  
例会日 毎週月曜日 12:30~  
例会場所 シェラトン都ホテル大阪  
事務所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38  
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号  
TEL. 06(6772)2320  
FAX. 06(6772)2327  
E-mail:hrcr@at.wakwak.com



会長 百 濟 洋 一  
会長ノミニー 切 石 博 之  
副会長 瀧 田 浩 彦  
幹 事 三 木 武 志  
会報委員長 福 岡 康 民

## THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

### ロータリーの未来はあなたの手の中に

2009~2010年度 国際ロータリー会長 ジョン・ケニー

第1737回例会 平成21年8月31日(月曜日) 第7号

#### 本日の例会

8月31日(月) 第4例会

- ◎ソング 「奉仕の理想」  
◎卓 話 「日頃の心」  
ゲストスピーカー 光徳寺住職 高橋法信様  
(担当:西村啓三会員)  
◎本日の献立 松花堂弁当

#### 次回の例会

9月7日(月) 第1例会

- ◎卓 話 「未 定」  
ゲストスピーカー  
(担当:小林成共会員)  
◎本日の献立 フランス料理

#### 前回の例会記録

8月24日(月) 第3例会

- ◎ビジター 大阪東RC 佐々木恭一氏 他1名

#### 会長挨拶

会長 百濟洋一

ロータリーでは、以前私が入会した時には、通称「炉辺会合」と言われた集まりがあったように思います。「炉辺会合」「炉辺会談」と言われた集まりは現在、言葉そのものが『手続要覧』に見られなくなっています。各クラブによってさまざまな名称で、集会が行われているのが実態です。当クラブは、ロータリー情報委員会にて年4回の情報集会を開催しています。

私の提案ですが、当クラブは昭和47年3月3日RI加盟承認から今年度で38年になります。チャーターメンバーもおられます。当クラブの先輩会員皆様はそれぞれ個性のある素晴らしいロータリアンだと思っております。私は平成6年の入会ですが、私より入会以後の会員を対象として、私より入会先輩の2名の出席を頂き、当クラブの活動・ロータリー情報そして人生観などの座談会をもって頂きたいと思っております。月1回程にて本年度中開催します。

当クラブの「温故知新」・「過去のことをよく研究して、そこからあらためて知識や意義を見つけ出すこと」だと思います。

それで早速ですが、郷田会員・西村典三会員のお二人に出席頂き9月3日(木)座談会を開催する事になりました。私より入会以後の会員さんよろしくお願ひしますと共に先輩会員もよろしくお願ひします。

#### 幹事報告

幹事 三木武志

1. 地区より、『兵庫県西・北部豪雨災害義援金』のお願いがきております。募金箱を回します。
2. 今週8月29日(土)開催の地区ロータリー財団セミナーには、百濟会長、佐藤委員長に出席していただきますので宜しくお願ひ致します。
3. 他クラブ例会変更・休会の案内を掲示しています。

#### 出席報告

佐井委員

本日の会員数 42名  
本日の出席者数 34名

本日の出席規定適用免除会員 16名  
本日の出席率 94.44%

## SAAニコニコ箱 大石副SAA

佐藤会員 例会欠席のお詫び。(母校甲子園応援のため)

岩崎会員 例会欠席のお詫び。

## 委員会報告

お願い

副会長 瀧田浩彦

### “ロータリーの友”を読んでください

先日配布されたロータリーの友8月号を読まれましたか?入会3年未満の方は勿論、それ以外の方も是非読んで下さい。国際大会バーミンガムの報告のあとに、米山記念奨学事業の基礎知識が掲載されています。そのあと、P.33からは国際ロータリーの基礎知識が8ページに亘っており、その中には、クラブ会員の恩典と責務、ロータリーの基礎理念、RIプログラム、ロータリー財団のいろいろなプログラム、ポリオに関して解説されています。続いてロータリーの基礎知識の日本編が8ページあり、日本のロータリーの生い立ちから戦前と戦後の変遷を年代順に述べられており、空覚え(うろおぼえ)の知識、知っていた積りの知識が、判然とした知識に変わる事と思います。どうぞ読んで下さい。

## 卓話

### 「陶芸から学ぶもの」

久宝窯 窯元 太田俊一様

陶芸の理解と設備の構想に5年以上の歳月を費やしたと思います。それから、窯は本格窯で、プロなみの設備に1年かかりました。その時の年齢は皆様と余り変わらず、今から考えると無茶な冒険をしたものだと思います。

私の陶芸をプロ並の設備で、プロ並の感覚でやり通した馬力、何がそうさせたのか、不思議に感じます。毎日が、プロに追いつけ追い越せの連続で、10年は瞬く間にすんでしまいました。

60才から、10軒余りの窯元で学びながら技をつけ、磨き、10年で作陶の技術、釉軸薬の調合、焼成の技術をプロ並にマスターしました。

しかし、あくまでも趣味の陶芸に生きたところに意義があり、私の生甲斐はこの20年に集約されたと思います。以下、順次お話しします。

1. 陶芸の起源は農閑期の農民副業。
2. 日本六古窯(瀬戸、常滑、信楽、立杭、越前、備前)
3. 窯(現代窯、登り窯、トンネル窯、窯元、窯詰め、火力)
4. 焼成時間と焼き方。

5. 磁器と粘土。
6. 作品の出来上がりは窯を開けて見ないと判らない。
7. 作るときは全神経を指先に集中させ、息を殺してする。腹式呼吸。
8. 作るときは土が軟らかいので、赤子をあやす気持ちで扱わないと仕事にならない。
9. 釉薬の発色は攻め、煉りと冷ましによってきまり、その発色は冷ましの時に出てきます。その中に耀変作品がたまにできます。
10. 完成品は粘土品より10%程小さくなります。
11. 日本人は奇数を好む。
12. 鉄の発色(黄、赤、茶、黒等15色)
13. 銅の発色(緑、紫、赤等8色)
14. 人間国宝

## 8月は会員増強拡大月間

国際ロータリー第2660地区 ガバナー 大谷 透

毎年、7月より新しいロータリー年度が始まり、RIでは各月ごとに強調事項を定めています。8月は会員増強・拡大月間です。ここで実りある活動が出来るようにと、我々はすでに5月30日に「会員増強セミナー」を開きました。

ある団体を構成する会員数が増加傾向にあるか減少傾向にあるかは、その団体の活力を表す重要な指標の一つです。

最初は4人の集りであったロータリークラブが、百年の間に世界的な組織にまで発展した要因は何だったのでしょうか。その活力の源はどこにあったのでしょうか。それは入会した会員の多くが、楽しく且つ有意義で、自分のためにも、人のためにも、社会のためにもなるクラブだから、仲間を増やしたいと思ったからに違いありません。

会員増強が強調され、それを実現するための方策が考えられる時、いつも吟味すべき点として挙げられるのが、クラブの内容です。新入会員にとってそのクラブが十分に魅力的であるかどうかです。

中国の古語に「桃李不言、下自成蹊」と言う言葉があります。桃やすももは自分から宣伝めたことは言わないが、良い実がなっていると、その実を取ろうとして人が集まってくるので、その下には自ずから蹊ができるものだ、という意味です。

例会の内容やクラブの諸行事は、個々の会員が魅力的だと感じるほど十分に楽しく且つ有意義だろうか。会員同士の交友関係は良好に深まっているだろうか。自分はロータリアンとして、人の心を動かすことができるほど十分にロータリーを身につけているだろうか。これらが備わっておれば、会員増強・拡大月間を作っても、頑張らなくても、「桃李不言、下自成蹊」の如く、自然に増強されると考えられるからです。

[以下省略]

[ガバナー月信8月号より]